

・アフリカ:WHO がコンゴのエボラ熱流行に緊急事態宣言

7月17日に WHO は、コンゴ民主共和国の北東部で流行しているエボラ熱の流行について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」の宣言を出しました(WHO News release 2019-7-17)。この地域では 2018 年8月よりエボラ熱の流行が発生しており、今年の7月中旬までに 2500 人以上の患者と 1698 人の死亡者が報告されています(WHO Outbreak news 2019-7-18)。6月中旬には隣国のウガンダでも患者が確認されており、7月には中部のゴーマでも患者が確認されたため、国際的な感染拡大を懸念し、今回の宣言に至りました。ゴーマは人口が100万人以上の大都市で、ルワンダとの国境に接しているため、人の往来が多い町です。この WHO の宣言に伴い、日本の厚生労働省検疫所ではコンゴ民主共和国やウガンダからの入国者に対する検疫を強化しています(厚生労働省検疫所 2019-7-18)。日本からの渡航者がエボラ熱に感染するリスクは低いと考えますが、流行国に滞在する際には、手洗いを励行するとともに、発熱している患者などには近づかないように注意してください。

・アジア:東南アジアでデング熱患者が増加

今年は東南アジア各地でデング熱患者が例年より多く発生しています。マレーシアは6万人、フィリピンは10万人、ベトナムは8万人、タイは5万人で、いずれも昨年の2~3倍の数になります(WHO 西太平洋 2019-7-8, Outbreak news today 2019-7-21)。台湾でも高雄や台南で58人の患者が発生しました(Outbreak news today 2019-7-22)。夏休みに東南アジアなどに滞在する際は、蚊に刺されない注意を心がけてください。

・アジア:中国でポリオ患者発生

中国の四川省でポリオ患者が1名発生しました(英国 Fit For Travel 2019-7-15)。原因になったのはワクチン由来の2型ウイルスで、2018年に新疆ウイグル自治区で環境中から分離されたウイルスと同一のもので、中国内陸部でこのウイルスが拡大している可能性もあります。この事例発生を受けて英国の保健当局(NaTHNaC)は中国への渡航者にポリオワクチンの追加接種を推奨しています。

・アジア:アジアでのジカウイルス感染症の流行状況

WHO が最近のジカウイルス感染症の流行状況を発表しました(WHO Zika virus disease 2019-7-2)。アジア地域については、全体的に患者数は減少傾向ですが、インド北部の Rajasthan 州や Madhya Pradesh 州で 2018 年に 280 人以上の患者が確認されました。また、新たな知見として、アジアでは 2000 年代初頭からジカウイルスが流行していることや、不顕性感染者の多いことが明らかになっています。さらに、アジア地域のウイルスの特徴として、妊婦が感染した場合の胎児への影響が、中南米諸国で流行しているウイルスに比べて少ないことがあげられています。

・アジア: フィリピンで偽造狂犬病ワクチンが流通

フィリピンで偽造された狂犬病ワクチンが流通していることが明らかになりました(英国 Fit For Travel 2019-7-8)。今回明らかになったのは Rabipur の偽造品ですが、すでに Verorab、Speeda、狂犬病用の免疫グロブリン(Equirab)の偽造品も確認されています。これはフィリピンでの狂犬病ワクチンの不足が原因の一つと考えられています。フィリピンなど狂犬病の多発国に滞在する際には、出国前に暴露前接種を受けておくことを推奨します。

・アジア: パキスタンで HIV 感染者が多発

パキスタン中部のラルカナで HIV 感染者が 876 人確認されました(WHO Outbreak news 2019-7-3)。これは今年 4 月～6 月に住民 3 万人を対象に行われた集団検査の結果によります。このうち 80% 以上は 15 歳以下の小児であり、母子感染の可能性が考えられています。